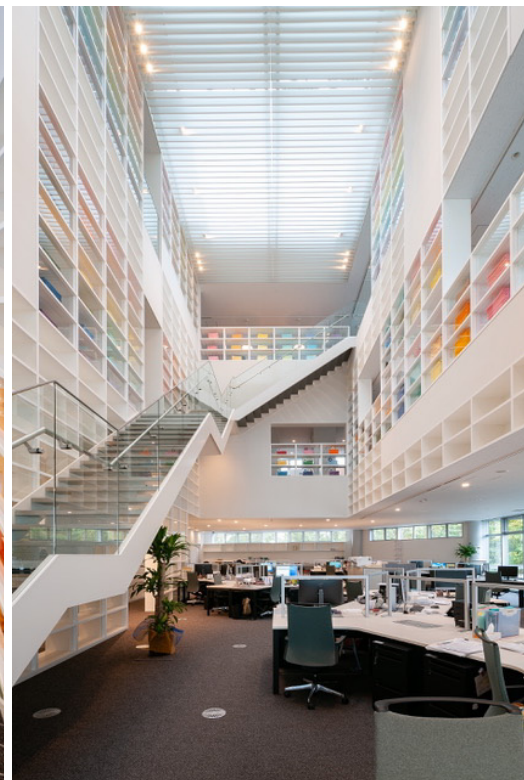


2020 年度 第 49 回 いしかわインテリアデザイン大賞 「大賞」

物 件 名	重光商事株式会社 本社			
	所 在 地	金沢市		
設 計 者	代表取締役 喜多 孝之 株式会社五井建築研究所			
	TEL		URL	



別添

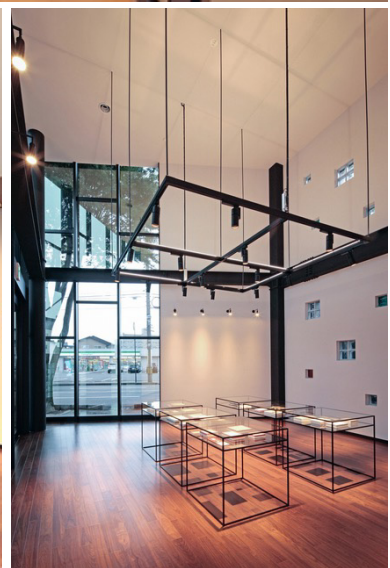
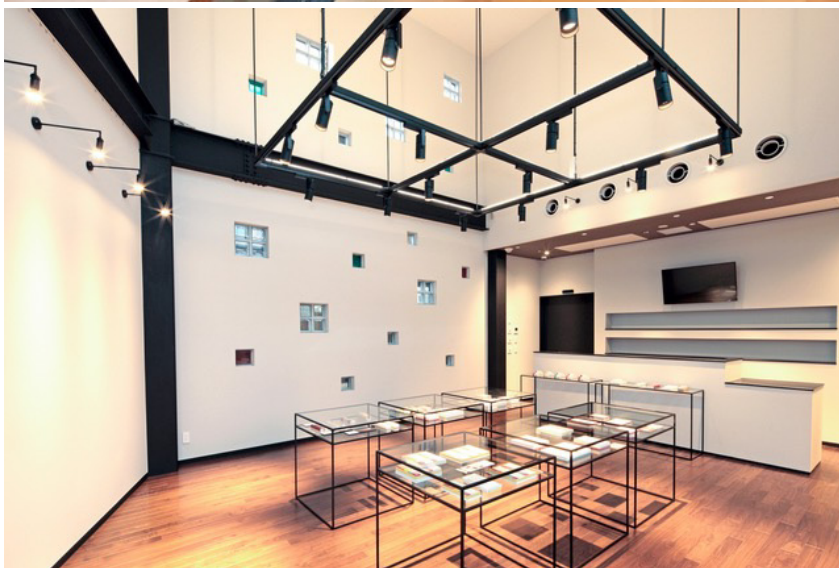
主にタオル等の輸入、販売を行う企業の社屋の建替えである。計画地は金沢市大野町の海岸から 1 km 圏内の砂丘高台にあり、建物に対して海側から塩混じり、砂混じりの強風が吹きつける過酷な環境である。既存建物は築 20 年程度の比較的新しい建物であったが、既に軒天井の一部はビスが劣化しボードが強風で吹き飛ばされ、サッシュやシャッターは錆びつき、海側の外壁面は、たびたび強風による吹き上げ現象で雨漏れを起こしていた。こうした厳しい自然環境と共生できうる建物を目指し、建物形態は海側の開口部を最小限とした流線形のボリュームにて強風を受け流し、塩、砂混じりの雨から外装やサッシュを守るため、庇を周囲にめぐらせた。また外装材料はチタン亜鉛合金メッキ鋼板にて素材自体の耐候性を高め、自然と対話する外装デザインを目指した。

既存建物の調査により判明したのは、執務空間と商品のサンプル棚が混在する無秩序な仕事場であった。長年の業務スタイルから導かれた結果であろうが、他者からみると雑然としており、働く環境として良いものとは言えなかった。また新たな建物は規模を拡張かつ、既存建物を使いながら同じ敷地内での建替えとなり、限られたスペース内では 3 層構造にする必要があった。しかし 3 層にすることで、社内のコミュニケーション不足の懸念が生まれる。何度かの提案を経て、内部空間は 3 層吹抜により連続的に繋がる一体感のあるオフィス空間とし、社員相互のコミュニティを図りつつ、吹抜を囲むようにタオル商品の大きな収納棚を設け、独自の EC を実現した在庫の豊富さをアピールできる特徴的なインテリアデザインとなった。

施主はメガソーラー事業や「リーフ革命」と称して社員に EV 車を供与している独自の取組みから、環境負荷低減に関心が高く、本計画は『ZEB: ネット・ゼロ・エネルギー・ビル』取得を前提に『高断熱化、高効率床吹空調、ナイトパージ、デマンドコントロール、LED 照明、太陽光発電、BEMS』など、省エネ・創エネ技術を採用した結果、建物の設計一次エネルギーは基準値より 77% の削減となり、石川県初の『Nearly ZEB』を取得している。また停電時の電力維持のため太陽光発電と EV 車蓄電池の相互電力需給システム『V2H』を導入しており、災害時の防災機能を高めている。

2020 年度 第 49 回 いしかわインテリアデザイン大賞 「石川県知事賞」

物件名	茶菓工房たろう			
	所在地	金沢市		
設計者	株式会社浦建築研究所 浦 淳・盛下 敏成			
	TEL		URL	



■コンセプト

茶菓工房たろうの本店兼工房の新築計画です。

施主様からのコンセプトは、「こんな場所で働いてみたい！」と、若い人たちに思ってもらえる和菓子工房づくりでした。従来の閉じてじめじめとした和菓子の工場イメージを変えたいという意思を反映する建物づくりに配慮し、それに加えてお菓子づくりを行ってきた先人たちの和菓子への想いや技術を継承しながら、「時代の変化に合わせ進化してゆくお菓子作り」ができる空間を目指しました。

①店舗では和菓子を美術作品のように展示させるためにインテリアの制作を行いました。吹き抜けに大きなガラス面を設けた開放的な空間に和菓を美しく並べます。

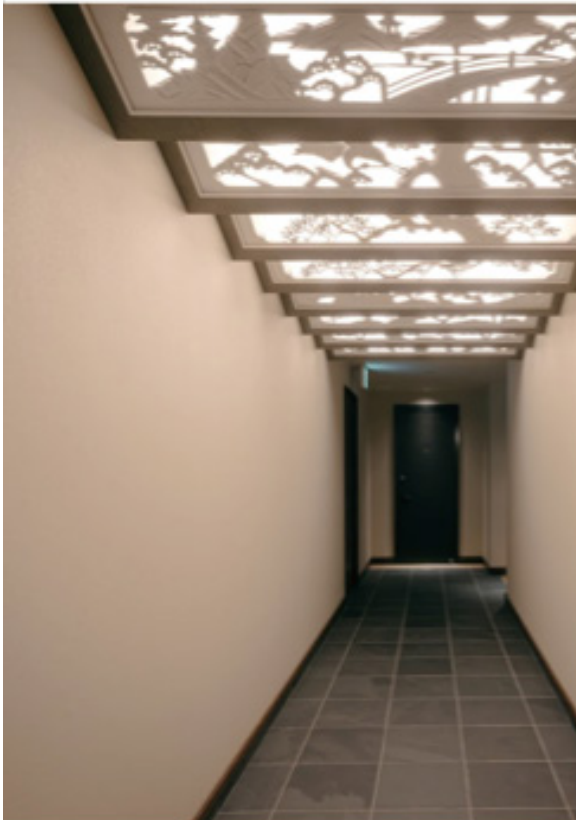
②たろうの和菓子である「もりの音」からインスピレーションを受け、スクエアの小窓を壁面にちりばめて店舗空間をデザインしました。光が小窓にあたると、きらきらとお菓子のように彩がうまれます。大きなお菓子に囲まれ、子供心がくすぐられるような空間としました。

③建物の中心部分に中庭を配置することで、お互いの作業を見通すことができ、また雨や雪、北陸の四季の移ろいが中庭から直接感じられる作業空間としました。2階には明るくゆとりのあるスタッフルームを中庭に面してL形に配置し、落ち着いて安らげる事務・休憩スペースとなっています。自然とのコミュニティ、人とのコミュニティ、お菓子とのコミュニティ。これらがお菓子作りの環境をより良いものへと向上させます。

④清潔区域、準清潔区域、汚染区域を明確に区分したゾーニングとし、作業効率のよい動線計画、諸室の配置計画としています。また、異物混入対策として特に防虫対策に配慮した換気計画を取り入れています。内装は清掃のしやすさに配慮して材料を選定しました。

2020 年度 第 49 回 いしかわインテリアデザイン大賞 「金沢市長賞」

物件名	SO,KANAZAWA			
	所在地	金沢市		
設計者	元川 鳴子 積水ハウス株式会社			
	TEL		URL	



Q. 地域の物語を紡ぐには？

金沢駅近くで永く愛された銘木店の跡地を利用した宿泊施設建築計画。

訪問した倉庫にはまだたくさんの銘木が出番を待ちわびていた。

- ・床柱
- ・彫刻欄間
- ・神代杉欄間
- ・漆の艶やかな蒔絵欄間

どれもが地域の職人による素晴らしい品で、その一つひとつに物語を感じて思いを馳せる。

これらを活用してほしい——

施主からの唯一の要望だった。

一方、石川の伝統工芸士は新たな活躍の場を模索している。

ショーケースから飛び出し、日常に寄り添うモノづくりは、わたしたちの暮らしを豊かにしてきた。

A.1 眺える・・・自ら足を動かし 暮らしの中で出会う 人・モノ・物語で眺える

「アクティビティ」

その地域でどんな体験ができるかが旅の醍醐味。旅で得たものが日常的に自分のモノになるか。まるで金沢の友人宅に遊びに来たかのように設えた。その土地で暮らすことで初めて見える景色や人・モノ物語。

それらを眺めるように客室の設えで表現した。

例えば「槐（えんじゅ）の間」

木へんに鬼と書く槐の床柱を活用することから部屋づくりが始まった。石川県の昔話「鬼の宴」になぞらえ、日常に寄り添うように伝統工芸を取り入れた。

A.2 UGC・・・地域も幸せになるしかけ

①UGCを活用した集客

インスタグラムを通じて作家が自らの展示作品の発信をすることで、作家の友人が地元に住んでいながら宿泊する流れが実際に起きていると聞く。

②地域も幸せになるしかけ

ホテルがメディアとなることで地域産業が活性化できれば地域も幸せになる一助を担えるのではないか。

そんなことを願い、設えた作品のキャプションに作家のHPへつながる「QRコード」を載せた。宿泊客と作家とがダイレクトにつながる「しかけ」をすることで、縁結びをして宿泊客のアクティビティへのニーズに応える。

A.3 ダイニングセット×日本を感じる・・・行動・文化とデザイン

「必ずダイニングセットを置くこと、畳を敷くこと」

インバウンド対応のため、ホテル運営業者から提示された条件は頭を悩ませた。座卓と座布団では椅子座文化の観光客が食事するには難しいらしい。そこで、180UPの小上がり畳に対してSH150mmの座椅子を合わせてSH330mmの低座椅子のように座れるよう計画した。ダイニングテーブルはH600mm程度のLDテーブルとして差尺を調整した。